

地 図

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称		教科書名
2	東 書	新しい社会科地図
46	帝 国	中学校社会科地図

2 教科書の調査研究における観点、視点及び方法

観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	① 題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫	地図の見方の記載とその内容
		② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例
		③ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	環境・国際理解等の学習への活用
(イ)	学習方法の工夫	④ 興味・関心を高めるための工夫	興味・関心を高めるための記載内容
		⑤ 見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫	作業的・体験的な学習課題の例
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑥ 単元・題材や資料等の配列	内容の構成と配列及びページ数
(エ)	内容の表現・表記	⑦ 学習内容との適切な関連付けがなされた地図や資料等の取扱い	地図の種類と縮尺及び資料等の活用方法の示し方
(オ)	言語活動の充実	⑧ 観察・調査や各種資料の活用の工夫	地図を活用した調べ方の事例
		⑨ 目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫	地図を活用した表現の事例

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	①題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫
方法	地図の見方の記載とその内容

地図の見方の記載とその内容	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭のページの一部に「この地図帳の地図記号」をまとめて掲載している。「現在の地形図のおもな記号」を『地形図を活用した身近な地域の調査(福井県小浜市)』のページに掲載している。 ○ 『地図でスタート』を巻頭に設けて、この地図帳の活用例を例示している。 ○ 世界と日本の一般図に「注目したい記号」を表示し、読図の視点を示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の1ページを使って、「この地図帳の記号凡例」をまとめて掲載している。「地形図のおもな記号」を巻末の『地形図』のページに掲載している。 ○ 『この地図帳の使い方』を巻頭に設けて、この地図帳の使い方を説明している。 ○ 世界・日本の一般図と資料図に「地図を見る目」を表示し、読図の着眼点を示している。

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
方法	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例

	国土の地理的環境の例	歴史的事象の例
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の周辺」で近隣諸国と地理的環境を表記している。資料図「国土の変化」で、国土の変遷を掲載している。 ○ 歴史的分野の教科書で扱う地名や遺跡を、紫色に白い文字で地図中に表記している。巻末の『事項別さくいん』に、遺跡や史跡の索引が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的な地図・資料として、次のものを掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「九州の中心都市、福岡市」 ・「商業都市として歴史を持つ大阪」 ・「京都、奈良での文化の維持と観光」 ・「大陸文化の伝来」 ・「平和都市 長崎・広島」 ・「江戸から東京への移り変わり」 ・「(北海道)開拓の歴史」 ・「旧国名 1868(明治元)年」
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の位置とまわりの国々」で近隣諸国や地理的環境を表記している。資料図「日本とロシア・ソ連の国境の変遷」で、北方領土の変遷を掲載している。 ○ 「おもな歴史地名・事項」を紫色の文字で、「重要な歴史地名・事項」を紫色に白い文字で地図中に表記している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的な地図・資料として、次のものを掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「東アジアと日本ー大陸から日本を見渡す地図ー」 ・「広島市付近」 ・「元禄時代の大阪」「明日香村(写真)」 ・「京都市中心部」「斑鳩」「奈良市中心部」 ・「江戸(1858年ごろの東京)」 ・「(北海道)開拓の歴史とアイヌ語地名」 ・「昔の国名と国境」

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
方法	環境・国際理解等の学習への活用

	環境学習への活用	国際理解等の学習への活用
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭に地球環境を特集した『66億人がくらす地球の環境』を設けている。 ○ 環境に関する資料図として、次のものを掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「南極上空のオゾンホール拡大」 ・「九州北部の変化と環境保全」 ・「琵琶湖の水利用と環境保全」 ・「北海道の地域開発と保全」 ・「ヨーロッパの酸性雨」 ・「アマゾン川流域の開発と熱帯林伐採」 ・「大都市がかかえる環境問題」 ・「白神山地の自然と環境保全」 ○ 世界遺産の登録地(世界の主なもの)やラムサール条約登録湿地を記号で地図中に示している。資料図「北海道の自然と観光ー世界自然遺産とラムサール条約」も掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 194か国の国旗全て一般図に掲載している。 ○ 「人々の生活と環境」で、世界でくらす人々の写真が掲載されている。その他に、次の資料図や写真がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・「現代世界の言語」 ・「世界の宗教」 ・「東南アジア、南アジア、西アジアの宗教」 ・「中国の地域性4(東アジアの民族)」 ・「中国の地域性5(伝統的な食生活の例)」 ・「ヨーロッパの言語と宗教」 ・「世界の食文化」 ・「世界の住居の材料」 ・「イスラム教徒の生活」
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『世界の環境問題』、『日本の自然環境』を設けている。 ○ 「環境のまち北九州市」という資料図の他に、「環境」という語句を明記した上で、次の9つの資料図を掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「酸性雨(中国)」 ・「森林の変化(スマトラ島)」 ・「アメリカ合衆国の風力発電の普及」 ・「森林破壊と保全ーアマゾン盆地ー」 ・「琵琶湖の水利用、琵琶湖の透明度の変化」 ・「藤前干潟の環境保護」 ・「ヒートアイランド現象」 ・「霞ヶ浦の水利用と環境保全活動」 ・「白神山地の自然保護」 ○ おもな世界文化遺産やおもな世界自然遺産、おもなラムサール条約登録湿地を記号で地図中に示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての国の国旗を各地域に掲載している。 ○ 『世界の生活・文化』を設けている。その他に、次の資料図や写真がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・「(アジア州)言語と宗教」 ・「民族(中国)」 ・「おもな家庭料理(中国)」 ・「(アジアと日本)共通してみられる生活・文化」 ・「イスラム教徒の多い国」 ・「アフリカの言語分布と紛争」 ・「言語、宗教(ヨーロッパ)」 ・「さまざまな民族からなる国々、宗教(ロシア)」 ・「言語(南アメリカ)」 ○ 世界の各州に「日本との結びつき」という語句を明記した資料図や資料を掲載している。

観点	(イ) 学習方法の工夫
視点	④興味・関心を高めるための工夫
方法	興味・関心を高めるための記載内容

興味・関心を高めるための記載内容	
東書	○ 世界と日本の一般図に、「注目したい記号」を表示している。世界と日本の資料図に、「読図の一步」を表示している。
帝国	○ 一般図や資料図に「地図を見る目」や「やってみよう」を表示し、地図を見るとき viewpoint や地図の活用方法を示している。

観点	(イ) 学習方法の工夫
視点	⑤見通しを立てたり，振り返ったりする学習のための構成上の工夫
方法	作業的・体験的な学習課題の例

作業的・体験的な学習課題の例			
東書	○ 「読図の一步」を表示し、地図を読み取る視点や作業内容を示している。 ○ 「チャレンジ」で、地図を活用した学習展開例を3～4段階で示している。	「読図の一步」の内容	個数
		「読み取ってみよう」等	61
		「考えてみよう」等	54
		「確かめてみよう」等	16
		「比べてみよう，囲んでみよう」等の作業	17
		「まとめてみよう」	9
		「調べてみよう」	5
		「理解しよう」	5
	「説明しよう」	1	
	計	168	
帝国	○ 「やってみよう」を表示し、生徒が実際に作業できるような学習課題を設けている。	「やってみよう」の内容	個数
		「抜き出してみよう，あげてみよう」等	12
		「考えてみよう」等	10
		「確かめてみよう」等	6
		「比較してみよう」等	6
		「選んでみよう」等	3
		「調べてみよう」	3
		「読み取ってみよう」	4
	「説明しよう」	2	
	「計算してみよう」	1	
	計	47	

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑥ 単元・題材や資料等の配列
方法	内容の構成と配列及びページ数

	構成	内容の配列及びページ数	ページ数
東 書	○ B判。 2部構成になっている。1部は、一般図と資料図からなる。2部は、「くわしい、補う資料」として、資料図と統計資料が掲載されている。1部と2部の関連について、双方の資料図に関連ページが表示されている。	① 1部：世界全体の基本の資料 世界の国々、地球儀と地図、66億人がくらす地球の環境、世界の自然(地形、気候)、世界の歴史と文化	13
		② 1部：世界の諸地域	32
		③ 1部：日本の基本資料 日本全体の地図、日本の地域区分、日本の自然環境、日本の人口、日本の産業、日本の資源と産業、日本の貿易と通信、交通と通信	10
		④ 1部：日本の諸地域	44
		⑤ 2部：世界全体のくわしい／補う資料 世界の気候、世界の農林水産業、世界の資源と工業、世界の生活と交流、世界の国の統計、各州の資料図と統計資料	12
		⑥ 2部：世界の諸地域 [各州のくわしい／補う資料]	6
		⑦ 2部：日本全体のくわしい／補う資料(13ページ) 日本の地形、日本の気候と災害、日本の食料生産と貿易、日本の都道府県、都市の人口、お国じまんなど(巻末)、地域に根ざした日本の食文化(巻末)、旧国名(巻末)、都道府県の区分(巻末)	13
		⑧ 2部：日本の諸地域 [各地方のくわしい／補う資料]	8
		⑨ さくいん	11
		⑩ その他 地図でスタート	3
			総ページ数
帝 国	○ AB判(タテがB5判、ヨコがA4判サイズ) 基本図(高さで色分けした地図)、拡大図(土地利用・植生区分の地図)、資料図、地図帳の使い方・さくいん、統計資料が掲載されている。それぞれはページ部分の色で色分けされている。	① 各主題の世界地図 世界の国々、世界の地形、世界の気候、世界の環境問題、世界の生活・文化	13
		② 世界の諸地域	52
		③ 日本の諸地域	56
		④ 基礎資料図 日本の地形、日本の気候、日本の自然環境、世界と日本の人口、世界のエネルギー資源、世界と日本の農業・水産業、世界と日本の交通・通信、日本の生活・文化、地形図(巻末)、日本の位置とまわりの国々(巻末)、昔の国名と国境(巻末)、都道府県(巻末)	20
		⑤ 統計 自然の統計、気候の統計、世界の統計、日本の統計	9
		⑥ さくいん	9
		⑦ その他(この地図帳の記号凡例、この地図帳の使い方、地域の特色をとらえるポイント)	5
			総ページ数

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑦学習内容との適切な関連付けがなされた地図や資料等の取扱い
方法	地図の種類と縮尺及び資料等の活用方法の示し方

	地図の種類と縮尺		資料等の活用方法の示し方
東 書	世界全図(主題図)	○ 11000 万分の 1	○ 日本の各地方の資料図では、7つの考察の仕方のうち、その地方に該当する考察の仕方を「クローズアップ」で示している。
	広域地図, 大陸地図	○ 2500 万分の 1 ~ 4000 万分の 1 ・ユーラシア(4000 万分の 1) ・アフリカ(4000 万分の 1) ・南北アメリカ(4000 万分の 1) ・環太平洋, オセアニア(5000 万分の 1) ・オーストラリア, ニュージーランド(2500 万分の 1)	
	各州地図	○ 2000 万分の 1 ・東アジア, 南アジア, 東南アジア, ヨーロッパ, ロシア連邦 ・朝鮮半島(500 万分の 1) ・北アメリカ中央(1500 万分の 1)	
	その他	○ 2000 万分の 1	
	日本の周辺地図	○ 100 万分の 1 ・九州地方, 中国地方, 四国地方, 近畿地方, 中部地方, 関東地方, 東北地方(ただし, 北海道地方のみ 200 万分の 1)	
	日本のある地域の拡大図	○ 50 万分の 1 ・福岡県の拡大図 ・京阪神の拡大図 ・愛知県の拡大図 ・東京都とその周辺の拡大図 (ただし, 北海道の南部のみ 100 万分の 1)	
	その他	・南西諸島(300 万分の 1) ・沖縄諸島(100 万分の 1)	
帝 国	世界全図(主題図)	○ 11600 万分の 1	○ 世界の各州, 日本の各地方の資料図の始めには、「ながめてみよう」と題して, 各州, 各地方を大観, 概観する資料図を示している。
	広域地図, 大陸地図	○ 4500 万分の 1 ~ 6400 万分の 1 ・アジア, オーストラリア, 北極(4500 万分の 1) ・アフリカ州, ヨーロッパ州(4500 万分の 1) ・南北アメリカ(4500 万分の 1) ・大西洋(6000 万分の 1) ・太平洋, インド洋(6400 万分の 1)	
	各州地図	○ 1600 万分の 1 ~ 3000 万分の 1 ・東アジア(1600 万分の 1) ・東南アジア(2000 万分の 1) ・南, 西, 中央アジア(2000 万分の 1) ・ヨーロッパ(1600 万分の 1) ・ロシア連邦とまわりの国々(2200 万分の 1) ・アメリカ合衆国(1600 万分の 1) ・南アメリカ(3000 万分の 1) ・オーストラリア, ニュージーランド(2000 万分の 1)	
	その他	・朝鮮半島(300 万分の 1) ・ヨーロッパ中央部(800 万分の 1)	
	日本列島	○ 400 万分の 1	
	日本の各地方地図	○ 100 万分の 1 ・九州地方, 中国地方, 四国地方, 近畿地方, 中部地方, 関東地方, 東北地方(ただし, 北海道地方のみ 200 万分の 1)	
	日本のある地域の拡大図	○ 50 万分の 1 ・福岡県とそのまわり ・大阪府とそのまわり ・愛知県とそのまわり ・東京都とそのまわり ・ただし, 北海道地方南部, 北海道地方北部は 100 万分の 1	
その他	・南西諸島(400 万分の 1)		

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑧観察・調査や各種資料の活用の工夫
方法	地図を活用した調べ方の事例

地図を活用した調べ方の事例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地理でスタート」で、ヨーロッパを例に、男女のキャラクターによる会話形式を用いて、この地図帳の構成をいかした調べ方の過程を示している。 ○ 「地形図を活用した身近な地域の調査」で、福井県小浜市を例に、調査の方法の各段階における具体的な活動内容を示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「この地図帳の使い方」で、オーストラリアを例に、主題ごとに活用できる資料の具体例を示している。 ○ 「地域の特色をとらえるポイント」で、北陸3県を例に、7つの考察の仕方に基づいた活動内容を例示している。

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑨目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
方法	地図を活用した表現の事例

地図を活用した表現の事例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「読図の一步」によって実際に作業できるような学習課題を設けている。また、「チャレンジ」と題して、地図を活用した学習展開例を示している。「チャレンジ」は、世界地理で10箇所、日本地理で22箇所ある。その学習展開例の中で、「～まとめてみよう」「説明してみよう」と指示するなど、言語活動を取り入れている。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やってみよう」と題して、実際に作業できるような学習課題を設けている。「やってみよう」は、47箇所ある。日本の資料図ページでは、地域の特色をつかむための「手がかり」を設けている。地図の読図や作業を指示するなど、言語活動を取り入れている。